

新荇田地区

新荇田地区は、昭和40年代に宅地開発され、その後自治会を組織し、自治会館を建設しました。この拠点を中心に、新荇田連合自治会や各団体がさまざまな行事を推進しています。高齢化が進む中、近所のつながりをより深められるよう、あいさつ等を通じた地域の交流を大切にしています。子どものふるさとづくりに向けて、異世代交流を進めながら、防犯・防災から小さな助けあいまで、各団体が協力したまちづくりを実践しています。

地区内の町丁目 荇田町（一部）



第3期計画の振り返り

- 行事の協力者に再度声をかけられる仕組みがあると良い。
- 「安否確認タオル」を配布し、発災時の助け合いや防災の意識を高めたい。
- 「あいさつ運動」をきっかけに顔見知りになり、隣近所の状況を普段から把握できるようにしたい。
- 子どもたちが自由に参加できる、地域での取組があると良い。



推進会議の主なメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、老人クラブ、青少年指導員、スポーツ推進委員
担当地域ケアプラザ：荇田地域ケアプラザ

地域で行われている活動



夏祭り



運動会



防犯パトロール

新荏田地区 地域福祉保健計画（令和3年度～令和7年度）

5年後にめざしたいまちの姿

お互いに声をかけあい、 子どもから高齢者まで、みんなを大切にするまち

目標1

「こんにちは！」のひと言で、子どもも大人も 世代を超えてつながる地域にしよう！



取組

- 「あいさつ運動」をきっかけに顔見知りになり、ご近所のつながりを大事にしよう
- パトロールの際に櫛（たすき）を付けて「あいさつ運動」を地域みなさんに知ってもらう
- 顔見知りになり、地域の行事や災害時に声を掛け合える関係づくりをする
- 家族ぐるみで参加できるような、地域に愛着が持てるようなイベントを開催する
- 「子育てサロン」や「異世代交流会」等、既存の取組みを継続し、子どもを介して親同士が繋がりを持てるようにしていく

目標2

まさかの時に備えて、お互い「助けて」と 声が出せる地域にしていこう！



取組

- 災害時の備品チェックリストを活用して各自で災害時に備える
- 災害時に「助けて」と言える関係づくりのため、日頃からあいさつを大切にする
- 防災訓練などを通じて、「安否確認タオル」の活用、災害マニュアルの活用等、災害に備える

目標3

つながりと声かけで、楽しみながら地域を 支える仲間をつくろう！



取組

- 誰もが地域活動に参加できるよう、情報共有の方法や活動内容を工夫する
- 地域の行事の際に「協力受付カウンター」を設置して、地域活動に協力してもらえらるきっかけづくりをする
- 協力して欲しい時に声をかけられるように、人材発掘の仕組みをつくる